

公開実用 昭和63- 8969

⑨ 日本国特許庁 (JP)

⑪ 実用新案出願公開

⑫ 公開実用新案公報 (U)

昭63- 8969

⑩ Int. Cl.

B 41 K 1/10

識別記号

庁内整理番号

6863-2C

⑬ 公開 昭和63年(1988)1月21日

審査請求 未請求 (全 頁)

⑭ 考案の名称 日付印

⑮ 実 頼 昭61-103828

⑯ 出 頼 昭61(1986)7月7日

⑰ 考案者 佐々木 福三 福岡県北九州市戸畠区一枝2-5, 10-308

⑱ 出願人 佐々木 福三 福岡県北九州市戸畠区一枝2-5, 10-308

明細書

1. 考案の名称 日付印

2. 実用新案登録請求の範囲

ケース本体1の開口上面の外周に摺動軸2を上下動自在に挿嵌軸支し、ケース本体1の内部に上下に若干移動可能に門型枠3を組付け、該門型枠3の先端部間に架設した受台4と中央部に架設されたダイヤル軸5に遊嵌した複数の日付変更ドラム6との間に複数本の無端印字ベルト7を張出し2つ3つ日付印10を立て、摺動軸2上面に軟質弹性材8を介して固定印字体9を取り付け、且つ受台4は複数個の切欠部10を互い違いの方向にその開口部を形成するよう設計することを特徴とする日付印。

3. 考案の詳細な説明

(産業上の利用分野)

この考案は、「受付日」や「氏名」などの文字を押印する固定印字体と該当の「年月日」を押印する無端印字ベルトを備えた日付印の改良に関するもの。

716

(従来の技術)

従来、二の種の日付印は、日付印の方向が紙面に對し垂直にからず若干左右前後に傾いたまゝ押印してしまった場合等、印字面と紙面が所要通りに合わせながら時、押印の一部が欠けてしまふという不具合がある。押印時に注意集中を要した。このため同様の理由により他種の印には、固定印字体をスポンジ等の軟質弹性材を介して貼付したり、実公昭30-13407号公報に示されるように無端印字ベルトを支承する後台部にスポンジ体を内蔵し上下動自在とならしめる案が知られてる。

(考案が解決したとする問題点)

二の種の日付印に従来の技術を応用した場合、スポンジ体の特性上、無端印字ベルトが常に正確な位置復元を行なえず構造が複雑で大型となり、又耐久性に欠ける傾向があった。

本考案は前記の欠点を解決し、構造が簡単製作が簡単で耐久性があり、押印時に紙面に對し若干左右前後に傾いたまゝ所要通りに固定印字面とし

可変印字面を自動的に紙面に嵌め込むことが可能で日付印を提供する二点を目的とする。

(問題点を解決するための手段)

以上の二点は問題点を解決するためには、二の考案は次のとく構成としている。

先づ、固定印字面12を紙面に嵌め込むに、図示する如く、ハニス本体1の開口上面の外周に摺動枠2を上下動作自在に挿嵌軸支し、該摺動枠2上面に固定印字枠11を装着し、又の内側に軟質弹性材8を介して固定印字体9を取り付ける。

一方、可変印字面13を紙面に嵌め込むにハニス本体1の内部に上下に若干移動可能な門型枠3を組付け、該門型枠3の先端部間に受台4を設け、中央部にタイヤル軸5を設け、該タイヤル軸5に複数の日付変更ドライバ6を装嵌し、二の間に複数本の無端印字ベルト7を張架し、受台4の所要位置に次2圖に例示する如く複数個の切欠部10を特にその開口部が互い違ひの方向に左35度に形成する。

摺動枠2、固定印字枠11、軟質弹性材8本5cm

固定印字体9の各々中央部10は透孔11を形成し、無端印字ベルト12の上部に於ける可変印字面13が突出可能にある。

軟質弹性材は其の両面に接着剤を塗布したスキンシート等を用ひても他の軟質弹性体を使用してもよい。

又、後台4は切欠部10を亘り違ひの方向にその開口部が位置するように2個以上設計の必要があるが、合成樹脂等を使用して射出成型等の方法により簡単に製作することができる。

尚、二二四は引きさつ上、固定印字体枠11を用いる事に説明したが、該固定印字体枠11を省略し、軟質弹性材8を直に摺動枠2上に接着しても機能とされは何ら変らぬ。

(作用)

次に二の考案の作用を説明する。

固定印字体9は軟質弹性材8を介して摺動枠2に取り付けられるため、押印時に固定印字体9自体の弾性と相俟ち軟質弹性材8が柔軟に変形し、固定印字面13は上下傾動自在となる。

又、可変印字面13は、無端印字ベルト7が複数個の切欠部10を形成した後台4に支承されるため押印時に可変印字面13および無端印字ベルト7を介して後台4に外力が加わると先の外力の強さおよび方向に応じ柔軟に上下傾動する。

これは後台4に切欠部10を形成する寸法 $\varphi 12.5\text{mm}$ 後台4に弾簧性を付与する $\varphi 3=2$ が可能になるためであり、特に切欠部10を図示寸法 $\varphi 12.5\text{mm}$ の方向に先の開口部が位置するように形成する。
次3図は図示寸法 $\varphi 12.5\text{mm}$ 押印面が左側に傾いた時は次3図の左図の如く、押印面が右側に傾いた時は次3図の右図の如く、又、傾きの生じた時は次3図の中央図の如く変形させ $\varphi 3=2$ が出来る。

この場合、後台4は切欠部10の形成位置、巾、形状、寸数等を適当に選定する $\varphi 12.5\text{mm}$ 無端印字ベルト7には適當な張りを付与しながら支承し、又、外力に対する先の方向大きさに応じ柔軟に追従変形させ $\varphi 3=2$ が可能になる。

以上の如く構成寸法 $\varphi 12.5\text{mm}$ 、固定印字体9および無端印字ベルト7が各自独立に上下傾動自

柱となり、押印時に固定印字面12か8が可変印字面13を紙面に自動的に形成せることが可能になる。

(実施例)

二の考案の実施例を図面を参照しながら説明する。

第1実施例

第1圖は二の考案の第1実施例を示す部品断面図、第2圖は同じ第1実施例を示す分解斜視図である。

第1実施例では摺動桿2の上部に固定印字桿11を側面接着し、その内側に軟質弹性材8を貼着し、さらにXの上部に固定印字体9を各々の開口部前方より透孔17がもうまくに貼着してある。

二の際固定印字桿11に設計した突起部14を摺動桿2に設計した挿入穴15に挿入すればXになり容易に位置決めが可能となり、X山は固定印字桿11は美観を向上するよう心を働く。

しかし、これを省略し軟質弹性材8を直に摺動桿2上に接着しても機能はしきは何か變らばないことは前述した通りである。

さらに受台4を門型枠3の先端部間に停止架設
 V. 無端印字ヘッド7を該受台4と門型枠3の中
 心部にある日付変更ドラム6間に張架し、ダイヤ
 ル軸5とダイヤル軸穴16と日付変更ドラム6とを
 連架して遊嵌する。受台4は形成された切欠部10
 は受台4を前述の如く変形自在にする。

次2実施例

次4図は二の考案の次2実施例を示す斜視図で
 ある。次2実施例では門型枠3の両側に設計され
 たダイヤル軸穴16の下部に図示の如く切欠部10を
 形成している。他の構成は次1実施例と同じ
 である。二の次2実施例の左の2は次1実施例と
 比較して受台4本体が門型枠3の各切欠部10の彈
 弅作用が相俟つ。されば柔軟性が増し受台4の
 上下動ストロークが増大するようになる。

尚、次2実施例において、受台4に切欠部10を
 設けず門型枠3の先端部に緩衝して門型枠3の
 切欠部10の弾弅作用により受台4に支障を生ずる可
 能性を除くことを上記自在な動作させることは出来
 3.

(考案の効果)

本考案は、摺動枠2上面に軟質弹性材8を介して固定印字体9を取りつけたと共に上り固定印字面12を上下傾動自在にしめ、一方、受台4の所要位置に亘る達の方向より複数の切欠部10を設けたと共に上り受台素材に弹性性を付加し、無端印字ベルト7に張11を付与して支承する同時に可変印字面13を上下傾動自在にしめることが出来るという極めて簡単な構造で製作が容易でしかも耐久性のある日付印を提供出来ることの効果を生じる。

本考案の日付印を使用することにより、粗面であることは堅い机上に直接置かれた紙面に付しても、又、若干押印角度の狂いを生じても、極めて柔軟性のある快適感をもつて確実に鮮明な押印を行なうことが出来、さらに固定印字体9と無端印字ベルト7が各々上下傾動自在であるため、固定印字面12と可変印字面13とが厳密に一致しなくてもよいことによる効果を生じ、受台4の切欠部10を設け適度の反発性を持たせた無端印字ベルト7を張

架させることにより、無端印字ベルトが若干弛緩しても常に適切な張り具合となるよう自己調節作用を生ぜしめるに至る。無端印字ベルトの回転時にあたり、ゴム印字部が変形しにくいために抵抗せざるものであるが、その時受台4が適度に変形するためには軽快に回転するという効果も生じる。

本考案は、以上の効果が、受台4に複数の切欠部10を特に左「直」の方向にXの開口部を形成することで設計することにより可能にしたといふ。実験によって意外の効果を見出し目的の達成などを知った实用効果の大なるものであり産業に寄与ある。

4. 図面の簡単な説明

ガ1図は本考案の日付印のガ1実施例を示す部分断面図。ガ2図は本考案のガ1実施例を示す分解斜視図。ガ3図は本考案の受台の動作状態を示す斜視図。ガ4図は本考案のガ2実施例を示す斜視図である。

1はケース本体、2は駆動桿、3は門型桿。

公開実用 昭和63- 8969

10

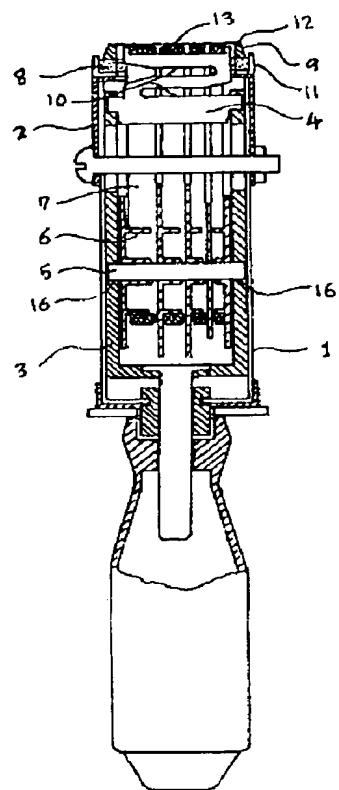
4は受台、5はダイヤル軸、6は日付変更ドラム、7は無端印字ベルト、8は軟質弾性板、9は固定印字体、10は切欠部、11は固定印字枠、12は固定印字面、13は可変印字面、14は突起部、15は挿入穴、16はダイヤル軸穴、17は透孔。

実用新案登録出願人 佐々木 福三

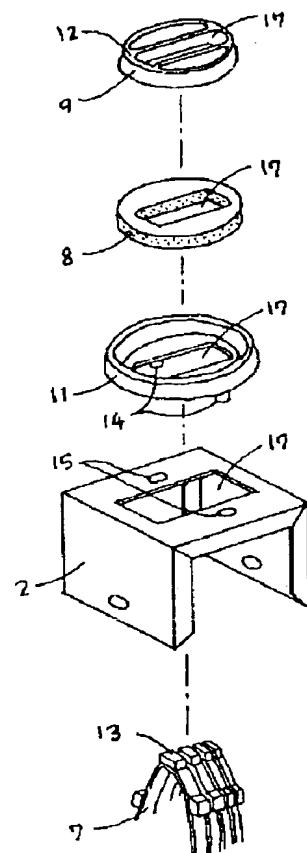
755

図面

第1図

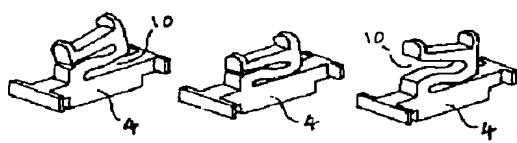


第2図

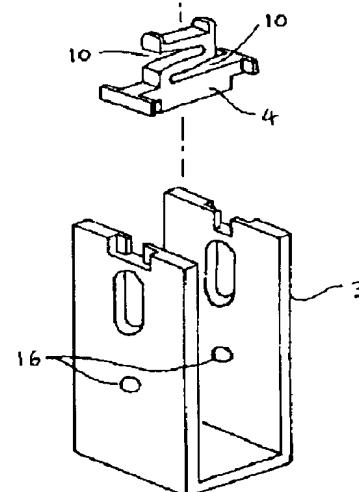
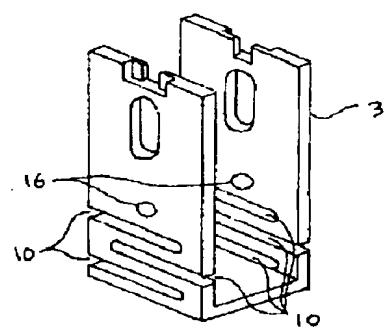


- 1 : ハンマー本体
- 2 : 振動棒
- 3 : 門型板
- 4 : 受台
- 5 : ガバーナー
- 6 : 日付捺印板
- 7 : 署名捺印板
- 8 : 敷實彈性板
- 9 : 固定印字板
- 10 : 切欠部
- 11 : 固定印字板
- 12 : 固定印字面
- 13 : 同蓋印字面
- 14 : 突起部
- 15 : 挿入穴
- 16 : ガバーナー
- 17 : 通孔

第3図



第4図



7511

実用新案登録出願人

佐々木 福三

**This Page is Inserted by IFW Indexing and Scanning
Operations and is not part of the Official Record**

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images include but are not limited to the items checked:

- BLACK BORDERS**
- IMAGE CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES**
- FADED TEXT OR DRAWING**
- BLURRED OR ILLEGIBLE TEXT OR DRAWING**
- SKEWED/SLANTED IMAGES**
- COLOR OR BLACK AND WHITE PHOTOGRAPHS**
- GRAY SCALE DOCUMENTS**
- LINES OR MARKS ON ORIGINAL DOCUMENT**
- REFERENCE(S) OR EXHIBIT(S) SUBMITTED ARE POOR QUALITY**
- OTHER:** _____

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

As rescanning these documents will not correct the image problems checked, please do not report these problems to the IFW Image Problem Mailbox.